

THE DAYBREAK

May 1. (No. 13) 1945

Rev. K.T. Shiraiishi, Editor

15-2E, Rohwer, R.C.

McGehee, Ark.

白石清個人雜誌

天
明

第十三期

「エホバはもろもろの國のあひだを審き、おほくの民を責め給はん。斯く被らばその劍をうちかへて劔とし、その鎧をうちかへて鎧とすし、盾は國にむかひて劔をあけず。歌のちとを再びまがひかふるべし。」

(イザヤ二ノ四)





○タルシシの船

(ヨナ書一ノ一七)

「エホバよわれ知る。人の途は自己に
よらず、且つ歩む人は自らその歩を
定むること能はざるヤリ」

(エレキヤ一ノ三五)

紀元前八世紀の頃はイスラエルにはエリヤ、エリシヤの族を承けて預言者が相次いで起つた時代であつた。夫等の預言者の一人に今語らんとするヨナが居つた。當時彼は神エホバよりアツシリヤの都ニネベへ傳道すべきことを命ぜられた。然るにヨナは異教徒の町、罪惡の市ニネベを行き、ヨツパの港よりタルシシ行の船にて逃避を企てたのである。然るに途中大難船に遭遇し、絶對絶命、遂に水夫達により海中に投込まれたと云ふのを大魚に吞まれ、三日の後もとの海岸附近に吐出されて蘇生し、茲に到底遁れ難き使命を感じ、決心して遂にニネベに赴き、熱心に傳道の結果、國王を始めとして全市民を悔改めしむるに至つたのである。「タルシシの船」とはヨナが神の使命を逃避せんとした塊糖より選んだ手段であつた。然し神は斯る卑怯なる振舞をゆるし給はなかつた。古來神の召命を蒙つて即座に之に従つた者は必ずしも多くはなかつた。モーセは「わかまよ願くは遣すべき者を遣し給へ」(出四七)として許退し、エレミヤは「若輩よくその任に堪へざる故を以て固辞し、イセキエルも亦召命をうけし時「御靈われに來りて、我を立上らしむ」(エ二)といふ。イサヤ「我を遣し給へ」(六)といつたのは、彼が聖潔を体験せし後であつた。何故彼等は神の召命に對し斯くも逃避したのであるか。他身し、彼等の使命の重且つ大なるに拘り、自己の餘りにも弱き度めきを感じたからである。神の使命に起さんとする者が、自力を以て事に當らんとする時、それは餘りにも重過ぎるを感ぜざるを得ない。ヨナが神の使命を蒙つた時、異教乱倫の都市ニネ

タルシシとはスエズ
の南端に在る港をも
いひ、又エホバの北
の港ともいはれ、その
位置判明ならず

べを自ら組つてゐたので、そんな所へ傳道に赴くよりもは氣楽かしむかつた彼は、遣んで其任に當る氣もせず、又明らかさまに辞退するよりも出来ず、逃々タルシンの船に馳込んだのである。

由來此世に在りとしある程のもの、何一つとして使命サーに存在するものはない。此処にスト
ーアあり、寒さを凌ぐ暖房である。此処に電燈がある。闇を照す光である。彼処に森林が繁つて
ゐる。木材を供給する。空高く浮んでゐる雲は、時に地に雨を降らす用をする。水中の魚類海草
より、地上を飾る野花、空飛ぶ鳥に至るまで、使命サーに缺つて宇宙に存在する物は一つもない。
況して人同むけぬ、何の使命サーに漫然と生存するといふ謂はれない。我等は實に使命と共に生
れ且つ生存を許されてゐるものである。マタイ傳第廿五章十四節に、主イエスの訓へ給ひし物語は
實によくよくの道理を闡明し給ふた。即ち或る主人が三人の僕達に夫々五、二、一といふ具合に
其の技能に應じて資金(タラシ)を委託せられた。程經て主人の前で勤怠といふ事に亘つた時、五タ
ラント、二タラントを託かつた僕達は、夫々に利益を得て、元利取揃へて主人の前に出したので、
主人殊の外御満足であつた。然るに最後の一人が追み出て申す亦多に「主よ、我は汝の蔽しき人に
して擔かぬ所より刈り、散らぬ所より斂むる事を知る故に、我恐れず、汝のタラントを地に藏
しおけり。視よ汝は、汝の物を得たり」と。すると主人忽ち御立腹され「悪く且つ怠れる僕
と罵つて叱られたのである。つまり彼も亦及ばず下り主命のために努力せんとはせず。タルシシ
の船に逃込んばヨと同様、神の使命を回避せし身位濃であつたからなぞめを蒙つたのである。
由來人間は誰でも二様の使命を帯ぶるのである。即ち一は社會的使命で、他は人間本来の使命
である。而して人生の價値は如何に社會的使命を果したかよりも、如何に人間本来の使命を達し
たかに存するものである。社會的使命といふのは、換言すれば「職業的及び對人的使命」である。
有機的社會組織の裡に、各自が違つた立場より、其の技能、勞力と時間を擇んで最善を盡す

とありに文化は發達し、社會的福利を増進するおとが出来る。而して大抵の人々は是か人同本
來の使命として考へてゐる。そして其の餘慶に於つて、經濟的又ハ社會的に地位を擡たりすると
之を以て人生に於ける使命を果し得たかの如く思ふのである。夫のし彼は社會的使命を果し得た
ものであつても亦故人同本來の使命が果されたとは云はれない。却てその反對の場合さへ斯くは
を以て。然らば謂ふとおりの人同本來の使命とは何であるか。親の我に就て希望するおとに非ず、
師傳長上の命にも國家の要請にもあらず、因より己か良心の指示する事でもない。おれ全く我を
此の地上生活に招き給へる神の聖旨に従ふおとであつて、實に巖南なる神の個人的使命である。
社會的使命がらば、自分でよくては出来まいといふものは一つもない。我に代つて為し得る者は
幾らでもある。然るに、神の使命に於ては、天下廣しと雖も、我以外に我に代つて之を遂行する者は
一人もない。かの南朝の忠臣楠氏か、天子の御召を忝し、謹んで殿下に代つて朝敵征伐の使命
を拜した時、餘りにも自己の微力を感じ、一度は御許退致したか、重ねて、朕は汝一人を股肱と
頼むよとの恩命を拜し、おれを我と思し召すかやすめりぎの、玉の御聲のかくるうれしさに感
激し、爾來、寡兵を以て大敵に當り、百万軍戰苦關、一死以て孤忠を盡したのである。一天萬衆
の君に預まれまぬらせて、一命をすく、御奉公仕らんおと、され今生の願みに御座候、といふの
か日本武士の使命觀であつた。だから彼らの戰術には常に「背水の陣」があつた。しかし、タルシ
シの船を設けなかつた。彼らは又「われ起て下人は蒼生を如何せん」と觀した。何といふ既んを
る意氣であらう。我ら基督者か、神の御使命を奉戴するに當つても、此の感激がなけれぬをらぬ。
然り、おれ若し起て下人は此の使命は永久に未解決の遺するの外はない。
去わし、それ程の個人的使命を、我ハ如何なる方法に於ても亦か一度も、誰よりも委任せられた
覺えは自に神の命を、かゝりぬれない。然り、おれ神の命を、人よりに乗下、神の默示に由るもので

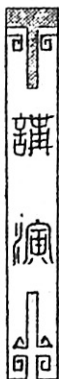
ある。モ―セはにして、イザヤ、エレミヤにして、神の聖言は唯彼らの敬虔にして静謐なる心
耳にのみ解せられたのである。貪慾と醜態に満ちたる俗耳には聖聲は通じない。我儘を感情に馳
かされてゐる者に到底神の使命は見出し得ない。

備へ神はその使命を回避したヨナの如き卑怯者を何故二度も用ひんとし給ふたか。他では
ない一度ヨナに命じ給ふた使命は、とうしても彼によつて完成せられぬの外はない。在りへエリ
ンヤやアモスも同時代の預言者であつたとしても、所詮ヨナ以外にヨナは無い。又神は、ヨナを引
戻して同一使命に赴かぬ給ふたふもによつて、ニネベが救はれたのみならず、ヨナ自身も亦救
はれ、二つ作り完ふせられたのである。又神は真にヨナを治さんかために彼を殺し給ふたので
あつた。彼が三日間魚腹に葬られて後ヨツパの濱辺に蘇生した時、ヨナは今度こそ真に使命を負
ふ覺悟をしてゐた。我等はもつと事業と使命に就て瞑想しなればならぬ。現在自分か營んで
ゐる事業の中に神の使命を見出し得る者ハ幸福なる人である。神の使命と共に事業を營む人は更
に恵まれをくである。何か自分の為すや、真の仕事か他にありやうに思はれて、現在の仕事に全
力を注ぐ氣にもなれず、一生懸命にゐるさ、馬鹿々々しいやうな氣がして、成るべく軽く済く
骨の折れぬやうに間に合せをやつてゐるといふのが、現在あなたの仕事據ではありまいか。然し
先人を仕事に祝福はない。たとへ他目には他人を見兼ね、い仕事であらうと、自ら個中に神の使
命を觀じて、喜んで全力を傾注し得る人はより幸福なる人である。

私は曾て「ランア直しの南京さん」と呼ばれた篤信する支那人封永生の小傳を讀んで感へられ
た事がある。彼はランア直しを職業としてゐたが、眞の目的は得道であつた。我々には二つの袋を
かけてゐた。零碎な修繕料を受取る。之を折半して一ハ慈善のため、一は自己の生活費に宛てた。
仕事は従来の片隅であつた。先づ其辺に有合ふ塵芥を拾ひ集めて燃料とし炭火をおおして盤陀

鏡の熟する間、彼は彼獨特の調子で讚美歌を歌ひ初め、すると道行く人々が立停まる。折を
見計つて詩々と自分の歌はれし有かたき體驗を語り、福音の證言を述べた。雨の日、風の晨、その
探みつき努力は遂に多くの人々を信仰に導いたのである。或人は彼に、支那語の教師とまり、衣食住
の道を極めて傳道せよと勧めたが、肯せ不、「若し身分がよくなつたら、その身分に恥て遠慮が出て
傳道が出来なくなりませう。あれ以下の落魄はをいし、これなら横濱市中央を歩いても自由に
傳道が出来ます。とても是れ以上の良法はありません」といひ、相表ら下せつせと稼ぎつゝ傳道
した。たとへ世間からはどの様に見られやうとも、正統な労働によつて得る些細な賃銀にて衣食
は足り、路傍に露地に、いつでも、おおでも誰にでも、福音の證言を操上の光榮とし、あつたき樂と
した封永生民こそ実に恵まれた人物であつた。彼は神の使命に沿くる光榮に與らん爲には、地上
の生活様式の如きは殆ど問題にはしなかつた。神は凡ての人を傳道者教師として召し給はな
し、凡ての人に傳道の機會を恵み給ふ。我等は使命を負ふ者である。人の世の使命ではない。
神の使命に生活する者でなければならぬ。即ち神本位に其の職分を盡すことである。斯る人はた
らへどの様な職業を―てゐても、神に聖別せられたる傳道者である。斯く、教壇なき傳道者か、もつ
ともつと起らなければならぬ。

(四月廿二日、明和教會に於ける礼拝記取)



○世界的な人格の諸相 (其四)

(ペテロ前書に学ぶ)

新部法

世界的使命を持つ基督教の基礎として、使徒ペテロが、特に主イエスにより選ばれた所以のも

のは、其率直なる信仰に據る所ありたるは論を俟たないものであらか、彼が其當時已に結婚生活を
せし、他の弟子よりも確實なる社會的地盤を持つて居つた所に歸因するにはありずやと想像さる
る所かある。ペテロ前書第三章一節より十二節に於て、極めて顯著なるクリスチヤンホーム
の訓戒を見る事か出来るか。ペテロは家庭生活を基礎として、小亞細亞與地の傳道を進めたやう
である。其遺業はペテロ書以外に徴するものは餘り見當らぬが、アルメニヤ教會が其初代より
結婚したる教師を以て牧師とせし、僅少の獨身教師を以て、説教僧とした所に、或は其遺業を窺
ふ事か出来るであらうと思はれる。

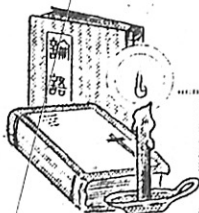
ペテロは其晩年に於てロマに移り、遂にロマニキヤソリツクの創立者とふつたやうに傳へられ
て居るか。然らば何故ペテロの專制主義を捨て、パウロの獨身主義を採用したかゞ疑問とある。
之れは當然パウロがロマ教會の創立者で、其獨身生活の形式も、贖罪主義の神學も、全然パウロ
より來つたものと見るのか本統である。而してマルケニルツクに及んで、專制主義を發揮し
たのは、恐らく初代教會の實際に喚發された結果に外ならぬ。

初代教會の發展が、家庭宗教に負ふ所多きは極りて著明なる事實である。然るに獨身主義信侶
が教會の中堅とあるに依り、人物の起る事か段々乏しくあり、遂に全く生氣なき**加藍宗**とあり
果て、仕舞つた。ルツターに據つて改革された**聖潔宗**は、爾來多くの偉大なる宗教家を輩出
し、遂に**加藍宗**教より脱出して、大倉衆宗教となり、近世の大教會を生み出した。然るに今又大

宗教家の輩出甚だ稀になり、尺俗小宗教家が、**救済主義の教會**擴張を之れ事とせし、宗教家は單
に寄附金募集に堪能なるを以て上衆するものとせむに至つた。所が寄附金募集の道にかけては、
依然獨身生活を本據とするキヤソリツクは、世界並る所に、其**魂**を振ひ、新教の不統一なる
陣容を尻目にかけて、旧態を盛り及さんと奮進努力しつゝある。之れに加へて、今圓の世界

大戦は、全世界至る所に財力の枯渇を來し、宗教の爲め獻ぐべき餘財が乏しくなり始めて居る。或は邊に寄附金蒐集の腕利も、其術を施す能はざるに至るやも知れまい。此点にかけてはキヤソリワツクも同様の運命を免かれぬ。

宗教の建設に立ち歸る事である。家庭を教會と見て、キリストに於ける一體觀をドコ迄も徹底せしめ、單に安息日のみの宗教にあらざして、ウイークデー全体に及ぶ実践的宗教を培養し、世離れのした世界的宗教の孫儀を外に見て、悠々家から家に傳はる世界的傳道を再現すべきである。此れが此は餘り多くの傳道費を要せず、家庭生活其ものか、傳道の實力であるから、自然此間に世界的宗教家も生れ、又世界的実業家も教育家も生れるのである。而して之れは今回の大戦を機として実現さるべき新使命である。



福語の聖書。

第二十、詩經と詩篇。

「子曰く、詩三百、一言以て之を蔽ふ。曰く思ひ研しま無し。」

即ち詩經には詩か三百篇もあつて、其の主意も多種多様であるが、一言を以て云へば無邪氣で、少しのいやみもないと孔子は簡單に詩經觀を述べられた。若し夫れ聖人をして、わか詩篇を讀

「子曰く、吾十有五にして學に志し、三十にして立」とある。如何との感情が動く。百五十篇の詩篇は詩經に比すれば半分しかないか、包蔵するところ、渴仰、讚美、祈禱、聖言の瞑想と痛悔、戦勝の祈願及び待望、救拯の信仰に至る莊麗なる一大靈詩の殿堂である。曾てW. E. カラツドストン氏が「ヤリシヤ文化の有ゆる妙境と雖も詩篇中の一篇の奥妙するに如かず」と言つたは至極尤もである。

第廿一、修徳難

「子曰く、吾十有五にして學に志し、三十にして立

つ。四十にして惑はず、五十にして天命を知り、六十にして耳順ふ。七十にして心の欲する所に従へども矩を踰えず。」

是れ孔夫子が學徳修驗の行者として、の生涯の里程標である。弱冠十五才にして志を樹て、以來、齡古稀に達して漸く成道の域に入つたといふのである。以て修道の如何に難事業なるかを思はしめる。大聖孔子ですら、五十有餘年の久しき不撓不屈の努力の功により、會心の業漸く成れりとも聞くものを、死んや下根なる凡夫に於てをや。「さらば誰か赦はるゝおとを得ん？」との叫びをよの所にも聞くのである。然り、救拯は到底此の処にはない。人間か自己の努力によつて人格の完成に達し得べしと考へるから、そは自我の真相に就て、認識不足あるより甚だしきはない。不出世の聖者なればこそ出来たおとで、そんな人物は千年に一人出現するおとではなからう。

第廿二、孝は諸徳の基

「孟懿子、孝を問ふ。子曰く、違ふおとをりし。」
「樊遲、御たり。子之に告げて曰く、孟孫、孝を

我に問ふ、我對へて曰く、違ふことをりしと。樊遲曰く、何の謂ぞや。子曰く、生けるには、之に事ふるに禮を以てし、死すれば、之を葬るに禮を以てし、之を祭るに禮を以てす。」

孟武伯、孝を問ふ。子曰く、父母は唯其疾を之れ憂ふ。子游、孝を問ふ。子曰く、今の孝は、是れ能く養ふおとを謂ふ。犬馬に至るまで皆能く養ふあり、敬せずんば何を以て別たんや。子夏、孝を問ふ。子曰く、色難し。事有らば、身子其勞に服し、酒食あらば先生饒す。曾て是を以て孝と云さんや。」

以上は孔子に對し、弟子違か各自に孝に就りて質問した時の孔子の應答である。聚録してある各別々の機會に個別に訊ねたものに相違ない。先づ懿子は魯の國の家老職であつた。彼か孝行に就て、どうすればよろしいかと訊ねたに對し、孔子は唯一言「違ふおとをりし」と答へた。其時樊遲か孔子の側に来た。すると、孔子は今孟懿子か孝道についで尋ねたから、違ふおとをりしと對へたとおちであると言はれた。樊は孔子

の高身である。然し「違ふおとまり」とは樂にも辭らなかつたから、重ねて尋ねると、孔子は父母の存命中は、朝夕の禮儀言語、出入の作法を正しくし、死をしたら程好く礼儀に適つた埋葬をせし、又三年目、五年目と、年を違へずに礼を守る事だと教へらる。次には孟武伯の質問に對しては、父母は我子の事を常に禁じておるものであるの少、攝生に氣をつけ、身体を大切にせよ」と。(武伯は怒子の子なり)

同じく子游の質問に對しては、今頃のものには父母を養ふだけで孝行だと云ふが、犬や馬でさへ食物を與へて養ふ仕ぬの事とは知つておる。養ふだけではなく、更に尊敬し、礼儀をつくし、且つ心を慰めなければならぬと、又弟子の子夏に對しては、いつも嬉しげな顔色と温順な言葉で父母を大功にする事は逆々むづかしいが、それか孝である。用事あらは父母に代つてや、御馳走あらは先づ親にすゝめて、自分を後にする事だ。だが、それしきの事ではまだ孝とは云へないと申された。

儲て以上、孝に就て孔子の回答は、相手次第で夫々違つた説明をせられた。是等要

約すれば温順、礼儀と慰安、健康と孔後の法事である。因より是れだけで孝の全貌下はない。孔子は、孝悌を以て行の基本とした。即ち孝行と友愛の二者である。曾て中江藤樹は、すべての道徳も、天地萬物の發生も皆孝より出るとし、孝を以て、宇宙の根本原理としてしたのである。彼は孝經を重んじ、王陽明に共鳴した儒者である。「夫れ孝は天の經なり、地の義なり、民の行なり」と、孝經に見えておるが蓋し、藤樹は是を敷衍したものであらう。前記の如く、孝は種々ある立場から説明を加へられたが、結局全貌を究めるときは出来ず、物足りなさを感じざるを得ない。元來「孝」といふ文字そのものが一方的な表現と、偏重の感とを與へる。即ち仕へる者とを前提として倫理観である。「孝行」「子息孝行」「父と坊間にはおふふともあれど、あれは「可愛かる」とおとの代名詞に過ぎない。その實際的に上より下への友愛をも孝行といふ語の

うちに内容づけられよとしか出来れば、もつとデモクラテックにナリ、廣く世界に推奨し得るかも知れぬ。之を要するに「孝」はありても東洋臭味を離れず、何といつても東洋民族の基本的道徳と以つてよい。その「愛」(ἀγάπη 即 Epous)が基督教的倫理觀の根本原理であるに較ぶれば、其より本質的普遍的に「デモクラテック」する点に於て、前者ハ到底「愛」の比ではない。

愛は神に創り、信仰に陥まりて神に達する道也。



□ エリヤ (列王上十七一)

紀元前八世紀以来の數百年間、イスラエルは預言者の時代とせり。イザヤ、エレミヤ、ホセヤ其他十數名の預言者が續いた。その預言者群の先驅者として登場したのが実にエリ

ヤである。彼の出現については我々は歴史的に何等豫備知識を具へられて居らぬ。凡そ八七五年頃(紀元前)ギリアアの山地に、忽然として現はれ、約廿五年間イスラエルに嘗て見ざる劇的且生涯を送り、弟子のエリシヤに後事を托して、忽然として去つた。

當時イスラエルには邪神バール禮拜が侵入して居り、エホバの預言者を殺戮したり、慘酷な犠牲させたり、事態甚だ憂ふべきものをおつた。斯うして今や傳統のエホバ禮拜は頂に危機に直面したのである。此秋に當り、全身の熱血急かに沸騰し、敢然憤起し、邪神を粉碎して、國民を工



ホバ禮拜の常道に引戻すべく奮闘した者は誰あ
らうエリヤ其人であつた。彼は由來さうした熱
血児であつた。去つし彼がホレフ山に於て學ん
だ神観は、從來秋霜の如く峻厳なりし彼の信仰
に一陣の春風を送つた観がある。即ち神は烈風
の中に在し、俗は下、地震の中にも、火焰の中
にも在さず、いとも静けき聖齋の裡に在し、俗
とを學んだのであろう。傳力によるデモンスト
レインシヨンは、神の聖計畫かは然る危殆に陥つた
場合、稀には必要ありともあらう。然し、人類に
對する神の眞の御事業は、火と劍を以て窮迫す
る流儀によつては到底実現せらるべきでない。

「時にエリヤ總ての民に近づきて言ひけるは
汝等何時まで二つの物の間にまよふや
エホバ若し神なりば之に従へ、されど
バアル若し神なりば之に従へ」と
民は一言も彼に答へざりき。」(列王上九、一七)

「神はその預じの知り給ひし民をすも給ひしにありて、汝らエリヤ
に對して聖書に「さうぞ知らぬか。」(ロマ十一、二四)



◎ イエスの奇蹟

イエスは屢々奇蹟を行ひ給ふた。
或しまは彼らに人目を驚かす爲めに
爲された事に非ず、全く愛と能力の
發動であつた。大監督トムソン氏ハ

之を分類して左の二種とせられた。

一、愛の奇蹟、即ち死人を甦へらせし件三。口精神

上の病氣治癒、六件。八、麻痺の病全治、十八件。

二、靈能の發動に由るもの、即ち創造(パンの奇蹟)

口枯死(無花果) 八、起自然刀七件(海上步行等)

三、威嚴、三件(宮湧出、ロマ兵主の前に転倒等事)

以下福音書中の奇蹟の項の對照を示せば

奇蹟

| 場所 | マタイ | マルコ | ルカ | ヨハネ |
|-------------|------|-----|----|-----|
| 水、葡萄酒にかわる | カナ | | | エー |
| 大匠の子齋する | ガ | | | 四、四 |
| ベテスマの地にて | 五、廿七 | | | 五、十 |
| 惡靈に憑かれし者齋する | 六、七 | | | 七、一 |
| ペテロの姑齋する | 八、十六 | | | 四、八 |
| 數多の病者齋する | 九、十 | | | 一、三 |
| 不思議なる大漁 | 九、一三 | | | 四、一 |
| 癩病人齋する | 九、一四 | | | 五、一 |

奇蹟

| | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 中風患者の齋 | 場所 | マタイ | マルコ | ルカ | ヨハネ |
| 手の萎へたる人齋さる。 | | 九ノ一 | 二ノ一 | 五ノ一 | |
| 百年長の僕齋さる。 | 海近し | 五ノ一 | 三ノ一 | 六ノ六 | 七一 |
| 寡婦の子の蘇生 | ナイン | | | | 七一 |
| 悪霊に憑かれし者齋さる | ガサレ | 八ノ四 | 四ノ七 | 八ノ一 | |
| 悪鬼につかれしがタラへ侍齋 | カタラ | 八ノ一 | 五ノ一 | 八ノ一 | |
| 血漏の婦人 | ゲネレ | 九ノ一 | 五ノ六 | 八ノ一 | |
| 司の娘蘇生 | ガナム | 九ノ一 | 五ノ六 | 八ノ一 | |
| 二人の盲人 | ガサレ | | | | |
| 悪鬼に憑かれし哑者 | ガサレ | | | | |
| 五千人を給食せらる。 | ベテサ | 西ノ五 | 六ノ一 | 九ノ一 | 六ノ一 |
| 水上を歩み給ふ | ゲネレ | 五ノ五 | 六ノ四 | | 六ノ九 |
| カナシの婦の娘齋さる | ピニケ | 五ノ七 | 七ノ七 | | |
| 聾哑者の齋 | ツロ | | 七ノ七 | | |
| 病者連の治癒 | ガサレ | 五ノ一 | 八ノ一 | | |
| 四千人を給食せらる。 | ゲネレ | 五ノ一 | 八ノ一 | | |
| 盲人齋さる。 | ベテサ | | | | |
| 癩病の子齋さる。 | ヘモサ | 七ノ一 | 九ノ一 | 六ノ七 | |
| 魚の口より銀貨を得 | ガナム | 七ノ一 | | | |
| 盲人の齋 | エゲム | | | | 七一 |
| 悪鬼につかれし盲の哑者 | ニダヤ | 五ノ一 | | 七ノ七 | |
| せむし婦の治癒 | | | | | 七一 |

| | | | | | |
|-------------|------|-----|-----|-----|-----|
| 水腫を患ふ者齋さる。 | パレヤ | | | | 六ノ一 |
| ラザロの蘇生 | ベタニヤ | | | | 七ノ一 |
| 千人の癩病人齋さる。 | ガサレ | | | | 七ノ一 |
| 盲人を食ヘルテマイ | エリサ | 七ノ一 | 九ノ一 | 十ノ一 | 六ノ一 |
| 無花果の樹枯る | オリア山 | 七ノ一 | 七ノ一 | | |
| マルコスの耳を齋し給ふ | ガサレ | | | | 七ノ一 |
| ○以上三十七件 | | 三三 | 一九 | 二一 | 七 |

○使徒連による奇蹟

| | | | |
|-----------------|------|-----|-----|
| 美し門下の跛者 | 使徒行傳 | 三ノ一 | 十 |
| アナニヤの喪死 | | 五ノ一 | 十 |
| 妻サツピラの喪死 | | 五ノ一 | 十 |
| 多数の病者齋さる。 | | 五ノ一 | 十 |
| 使徒連天使により宇合を出づ。 | | 五ノ一 | 十 |
| ステパノの奇蹟 | | 六ノ一 | 八 |
| ピリポの奇蹟 | | 八ノ一 | 六 |
| サウロの失明 | | 九ノ一 | 三ノ九 |
| アナニヤ、サウロを齋す。 | | 九ノ一 | 十七 |
| ペテロ、アイネヤの中風を齋す。 | | 九ノ一 | 三ノ五 |
| ペテロ、ドルカスを蘇生せしむ | | 九ノ一 | 六ノ四 |
| ペテロ、宇合より導き出さる。 | | 十ノ一 | 六ノ一 |
| 魔術者エルマ告白となる | | 十ノ一 | 一 |

ルステテにて生来の跛者パウロに齎さる。
賣卜の精神病婦人パウロによりて齎さる。

行由八十一
夫夫九

パウロによつて為されし異能。
青年ユアコの蘇生。

十九、十一
廿八、十
廿八、三、六

甥の害をうけたりしパウロ。
パウロ、ホアリオの父の痲病を齎す。

廿八、八、九



愛

加州の南端メキシコ國境に
近くコーチエラといふ農村
がある。帝國平原に續く炎
熱の地であるが、それで
冬は又相當に寒い。
此村に熱心な基督者で、
人といふ百姓がゐた。どう

いふものか不運つゞきで、
事業は全く行詰つて
しまつた。それでも今度おそ
といふ希望に励ま
されて、どうやら成らぬ工
面をして、今年も期節
の持附を濟し、毎日畑を見
廻つては、作物の伸びか
るのを樂みながら暮して
ゐた。或續も別年より
好かつたので喜んでゐた。
然るに、天心さうか

生憎一朝の霜のため、折角の丹精も全く水泡
に歸してしまつた。丁さんの失望は申すまで
もありません。悄然として門口に立つた夫の
常せらぬ様子に、妻が訊ねると、右の次第を
語つて歎息した。するや妻がいひました「あな
たは何処を見ても来なかつたか。霜にやられず
立派に残つてゐるものかありませんの。」
「エ、どこにそんなものが残つてゐる？」夫は
びつとりして聞返した。「あれ此の寺と、あの
元氣童子像を御覧下さい。おんを良い畑か違
つてゐます。第一に神様がお褒り下さいます。
皆で一生懸命協力してやり直しませう」と、早
晩いて祈り始めた。夫も已か不信仰を取分、共に
涙の祈を捧げました。起上つた時には、先刻来の
憂鬱は全く一掃せられ、新ぶる勇氣が加へられ
たふとを感じました。その中に、羅府より取引先
の店員が来て、其年も資本の融通をしてもらひ
夫妻は今更の如く神の御導きを感謝せられま
した。斯様にして一層の勇氣を以て働きたるの
で遂に貧年ぶりに好結果を歛め、従来の借財一切

を消却して高伏何かを刺したのであります。丁
さんは當時を回顧して言つた。私はあの時初め
て神様の愛の味を悟りました。

神様は愛なるお方とは申しながら、愛に弱れ

て、甘やかしたり、結果を考慮せずに物を呉へた

りはをさいませぬ。丁さんが最後の頼りとして

ゐた作物を徒勞に歸せぬ給ふたのは、愛の神

様とも思はれぬ慘酷な所置と一か感せられませ

ぬか。後で戻付いて考へて見れば、兎角樂を

出さぬかりしたがる人間を鍛練し、強く活かさ

んとこの眞の親心からであつた事が判ります。即

ち聖書に、「神は眞実なれば、汝らを耐へ忍ぶふ

と能はぬほどの試煉に遣はせ給はず。汝らが試

煉を耐へ忍ぶおとを得んために之と共に過るべ

き道を備へ給はん」(コリナ三)とあるのを以て見れ

ば、世の中に苦難があり、試煉があるからとて

神の愛を疑ふ理由はありませぬ。思慮ある親が

偶々其子を折檻したかりとて、其親は子を愛さ

ないちは言はれまい。

一傳みては打たぬものなり笹の雪」といふ名句

かあります。私の故郷では雪が澤山積りますの
で、竹藪へいつて見ますと、大きき竹が笹に積

る雪の重みで無慘にへし折られておます。それ

を防ぐために、百姓達は根柢を以て竹を打つて

廻ります。竹若し心ありば、何故我を打叩くの

かとの不平もあらんかふれど、我を破滅より救

はんとの親心と知りば、その愛の鞭を感謝せず

には居られまい。

聖書に「夫れ神は獨子を賜ふ程に世人を愛し

給へり。そは彼を信する者の滅びずして、永遠

の生命を得させん為なり」(ヨハ一)とありますやう

に、父なる神様は我ら人類を熱愛し給ふの餘り、

其の獨子を衆の現世に降し給ひ、刺さへ聖子

を十字架に釘けてまで、人類に救ひの道をお開

き下されたのであります。神の愛、おゝ神の愛

何と勿體ないおとではありませぬか。

とありか不思議なおとは、肉身の親の愛を有難

いと思ふ者が、天地の父神の大愛を嘗て一度も

有難いと思つたおとも百い人々の多いおとで

生きておられぬ身でありながら、神様の御寛容をよいおとしとして、我儘氣儘の世渡りをし、執心に神を信仰してゐる者を嘲るといふは、何といふ心得をいわざでありませうか。我らは眞の神の御愛を信り、神修行をする子たる道を盡すおぼやうませぬ。



たいお虫
の可なり

秋空はからりと晴
れ渡つておたか此

沼の水は、どんよりと濁つて陰氣でした。

その水蒸に数匹のたいお虫が寄合つて、しめやかに泣いてゐました。そのへ偶々通りかゝつたのは、近所で見知り越しの蛙さんでした。「おや、皆さん、どうしたんですか。何か御不幸でもあつたんですか。」すると、年増の一匹が振返りながら答へました。「ハイ有難うございます。実は、家の父が逝くなりまして、悲しんで居るとおつた。」「ハア、それはお氣の毒でしたな。そ

して、お父さんはどおに居られるのですか。」たいお虫は黙つて天井の方を見上げました。蛙がその視線を辿ると、水が濁つておてはつきりとは見えなかつた。水際に一叢茂つた葦の一本に、水面を少し上つた所に、絶つたまゝ、死んでおました。

其後しばらく此附近に蛙の姿を見

かけなかつた。たいお虫の家族は、真日突然蛙の来訪に驚かれました。彼は過日、水中より水上の生活へ移動して、見た体験談を聞いて聞きました。陸上の生活は、己々年中とんよりした水の中とは違つて、清朗なる空気が地上を掩ふておて、どこまでも見通される。名も知らぬ美しい花が、到る処に咲き乱れておると、日光は燦々と照れて、実に目の覚めるやうに美しい世界だといふのです。たいお虫の一族は、目を皿のやうにしてその地上界の空見談を聞きました。すると蛙さんは更に驚くべきニュースを傳へました。それは、曩に逝きしお父さんのお父さんに遇つたといふ事です。勿論皆は信じません。人違ひか、ともなげ、此世でも見たのでせうといふ。すると蛙はむきに身つて、「いや、それは眞実の結です。」

殊にお父様から御傳言で頼まれて来たんで
のらぬ。それではと一同は愈よ耳を軟てまいた。
「多分家族の看護は私か死んだと思つて悲しん
でると思ふが、御覽の通りだから心配せぬやう
に申して下さい。神様のお招きにて皆も其のう
ちにきつと立ち上りへ移動する方とに成りませう」
と申されずいた。「ではお父さんはまだ其処に
居るのでせうか」と息子が訊ねました。「それが
です。翌朝又訪ねた時は、もう何処へか行か
れた後でした」と蛙さんが答へました。
其の翌日、あつたゞしく馳込んで来た蛙さんは
又しても驚くべきニュースを傳へました。蛙さ
んの話は斯うでした。——けふは地上世界は天
氣かよいので、私は大きな石の上に登つて、何んや
り附近の景色を眺めておりました。すると、何処か
うともなく一人の天使がスーツと降りて来て、直
ぐ私の近くに立たのです。ギヤマンのやうに光
つた大きな両翼を張つて、すうりとした見ろか
らに心身の輕快を懷はせるやうな吟装をした。
私はたゞ恍惚として見とれておりました。すると

其天使が仰るもどに「私はたいお虫の親だか
一族の看護は今どうしておませうか」と。私は
びつくりして、もう一度お姿を見直しましたか。
その、どなたも昔のお父さんの像はありません
でした。たゞ眼の大きく光つたとおろかなし似
てゐる位でした。私は唯夢をえておるやうな心
持で黙つておりましたか。天使の仰るおどに「神
様の不思議をお恵によつて、あれ此通り、天使の
やうに両翼を頂いて、天上天下自由自在に飛ぶ
おどの出来る結構な身分にして頂きました。一
族の看護もやめては皆、私のやうに蜻蛉にならせ
て頂くのです。だが、ちよと一つ大切な事があ
ります。それは水中生活のうちに怪我をうたり
病氣があつたりすると、折角恩寵に與つても、
以前の怪我のために、飛行機能に傷害を来し、最
早天界に飛上るおとが出来ず、或者は興りの時
に滅び、或者は地上をのたうり廻つて終に永遠
の滅亡に陥るものであります。だからたいお虫
でありさへ、それは誰かが蜻蛉にふれるのでは
なく、たいお虫の時代に神の御誠に叶つた

生活をしなければならぬ。一族の者共には
 皆てうすうす其の様を語りたけれども、つひ
 うっかり聞流してぬるかも知れませぬので、其
 事か氣にかゝります。此度は自身が確と体験致
 したおとにより、確信を以て此眞理を語る事と
 が出来るので、先刻あつたの姿をお見受けし
 ましたので、是非此事を一族の者達に知らせて
 やつて頂きたいと思ひます。斯うして降り
 て来ました。では是非お願ひ致します。私は唯
 大きく首肯しましたか。天伊様は如何にも安心
 した様子で、ツイと身を躍らせて、澄渡つた杖
 空高く銀翼を繰へして上つて行かれました。と
 な話上手な蛙さんは詳しく話してくれました。



○エール大学の神學教授ルサー、ワイエル博士
 曰く「宗教の自由として、市民として其責
 任と水分からの自由ではない筈だ。

何人と雖も、家灰又ハ日照日から除外される宗教と

いふものを有つ者ハあるまい。世のくろ白々の生活を公衆
 事業の爲め、資源として、是等を活用する事と

等閑にせざるべし」と



日系兵の

靈にさへぐ
 (長歌)

一本軌堂嘗長

忠奮の戦死をさきて

尾形逸抄

敷島乃大和心はわかにかやと

人がたつたを日系の

其つはもの、心と

いみじくひあゝはさぎ

其つはもの、良には

世界意識にもえたらぬ

起つつはもの、唇よ

吐 アメリカは何ものぞ

吐 日本は何ものぞ

世界平和のその前に

はた國ありや民ありや

世界平和は神の旨

日系兵の良心には

既に八紘一字无

いでつはもの、進むとき、

親も祖國も飛び去て

世界 平和の一途あり

己を至とくたきやぞ

永遠の平和の基礎とふる

其みよ、あのかゝるよ

あり日赤のつげれつは

平和の神の使とぞおもふ。

○無限無量

おがら

○かぎりなく身をを思ひをふりあふく

み空はひあゝ鉄の橋りし。

○身にたにの罪あらわやは深けしと

思ふぞ人比 迷ひをりける。

○もの、ふれやぞキリスト乃生ける水

ふかきまゝ、あはかり知らずも。

(マリアサのけをりた態はせ給ふ御方へ)

○かぎり振りて答ふべきにもいひぶんを

目まにきまか情とぞおもふ。

○王者さへあつても知らぬ命なり

何あそひて花を呪ふべき。

○待つ 白藜

チヤールス ガーチャス作
白石 清輝

日教かぞへて待つ間はたふとし

たよーひの目覚めくる時

木の葉の簾こまの開ける日に

到らぬとぞなく生命は躍る。

まだ暗く ともしる空

野のたぐすまぬ 泥どろにまみれ

雪ゆきさむくのまじりぬ丘の中腹

花もまだ蕾の底にねまゐりて。

さうろは約束にせき立てらん

むちとはおどりぬうまさき希望つぼみ

青い鳥は春近きを告げぬ

けからかに歌ひとつうたひて。





落 漣



○平和時代の意識—フォーステック博士曰く「我々の敵國の完全な軍事武装解除をすること、又必ずしも應じて軍事行動を起し得る國際軍を編成すべし」といひ、而して我が歴史上未だ嘗て企てられし事なき最も完備せる軍隊組織を設ける必要ありといふ。すると我らは戦後の世界状況が如何になるかを知る前に我らの現在の友邦の或者を假想敵として考慮せねばならぬといふに「さう」と、岡氏ハ平和時代の意識によつて派らるべき立法を戦時中にするのと反對を表明した。遂に敵軍を粉碎し其國土を占領するを以て平和と見做すとは聊か算計であらう。今日の問題ハ如何に平和を持續し得べきかに非ず。如何に平和を達すべきかである。

○アフリカの使徒—佛蘭東アフリカ傳道の宣教師にアルバート・エウワイツァー博士ある事は周知のこと、博士は醫藥その他の慈善事業を全く独立で經營せられ、諸放派教会の寄附金により支へられてゐる。知つて如く彼ハ非常なる學者であり、音楽家又著述家である。此度任地に於て

七十歳の誕生日を祝はれた。神よ、人を祝し給へ。
○ヒリツピン宣教師—其の殆ど全部が此度解放せられたとの報道により、傳道本部及び家族近親も驚喜せられた。其等宣教師連の通信の節に「一度和道の食料の品数が増加したとありやも、砂糖ミルク及びマニカ果られてゐます。それら明日から兵隊さん達に養つて頂くものとかりました。そして、明日朝からデマが飛んでゐます。だつて卵とベロニ、野菜と果物の罐詰とフレンドだつて言うんですからね」とあつた。

又他の手紙に「昨日我々は過去三年以來最初の米國人料理を満喫いたしました。我々、近く帰米します。さて海路でせうか、飛行でせうか、多分双方でせう。我々、今よく看み看みのまゝです。然し心は歡喜に躍つてゐます……」と。以て如何に食物不足に難まされたかと窺はれる。我々の意もなれた。因に北米宣教師協会の發表によれば此度収容所より解放せられた宣教師は合計四百二十名だつた由。

○電気應用料理—今やその劃期的時代が来るといへる。ローストするに一時間餘を費したは過去の事と同じ。今や今や数分間で出来るといふ時代が来りつゝある。オーブンに入れたポテトが殆ど瞬間にバクバクせれるのと可能と認めらるゝに至つた。斯う超速のレンジは戦争が生



○卒業生

センターすまいる

帰れり内卒業



短期出所
召集令

□復等て上り
結婚

九



短期出所
帰りハ足ノ早さかふ



結婚
仕事

は振出へ戻る

○短期出所



戦況ハ
利あり
冬謀
師志
如何に

○町の考謀

・両岸
木彫

大火事
囲碁
軟球

んだ電気工業の新発見でメカガザム
ヒートンク(Heatonsky Hotonsky)と称せられ
てゐる。勿論まだ少く実験中ではある
が、兎に角料理藝術の進歩として大
に期待せられてゐる。長時間電氣を外
部より加へる方法よりも同様の熱を少時
刻に食物の全部に加へる事によつて、食物
の有つ營養素と風味とを個中に
カシヤトする事が出産すると。

時間と營養素の二つ作りセア出来る
ハ、健康に家庭科学の一大進歩である。

○思ひかけぬ患者—イクリヤ前線下り
話である。林園赤十字の一現場員が或

日テシト内の事務所に座つてゐた。すると
突然大きな黒い物が彈丸の様に飛
込んで来た。見れば一疋の犬であつた。

ひどく負傷して出血してゐた。そのや從
業員の上ム君は早速應急手當をし

てやつた。その間犬はトム君の頬をいはず

手といはず紙めすめた。そして突然無

意識に陥つた。トム君の目からは涙か
下つた。暫く待つてゐると彼の患者は

正氣がいて起上り尾を振つた。それハチリ
ア種の犬であつた。両者の諱号言葉は

通譯を要しなかつた。トム君ハ直ぐ彼の
飢えてゐる事とを悟り食物を與へた。

それから犬ハ机の下で居眠を始めた。
内地に送つたトム君のクリスマスカードには野
壕中で寫生した彼の犬の姿であつた。

○二つ星—「パパー、見やせん、あそこ
にも、兵隊さん二人出てゐる家庭がある
から。」「ア、あそこには二つ星のペナ

ントが出てゐる。」「パパー、その家は犬
き、けと、星は一つも見えない。」

いふやうな子ハ、屋並ひの絶えた空
地に通り切つた。すると、青く澄んだ

空には、雲は一條大まか光つてゐた。「オ、
パパー、神祕はきつと、子供を出してや

るんだ。あれ、天の窓に大きな星が一つ出
てゐる。パパーは首肯してゐた。「神ハその独

子を賜ふ程に世を愛し給へり。」



○印度の宣教師

連ハ今由キリスト
教同盟にすゝめ

又ハ政治的同盟か、それかに統一せねばなら
ぬ事とせつた。米宣教師エズケガ氏ハ
南印度にて地方救濟事業に従事しつ、
ありし医師なる夫人と共に印度を退去せよ
との命をうけた。国民ハ地方民の爲に有ゆる
努力を以て、夫人の保護の任に當つた。よく結
局氏の同情ハ英國官憲の忌憚にふれをも
つて、氏夫妻ハこゝろよく米國に歸つて来た。
○農産専門家の見解として發表せられ
たとあるに、今度改進黨が終結して政
州農氏が普通の生産に復帰するや
否や、忽ち生産過剰を来すであらう。そ
レハ凡そ今より三年後と推定せられる。
二百五十万エーカーの耕作地が去る一九三九年
以來増加せられてゐる。

○メソヂスト派にてハ此度ミシシッピ州ヒロシシ

所在の敷地に千方帯の汎米会館建設の計畫を進めてゐる。それハ、ホム大、全館、短波放送局(南米句)及び汎米図書館をも含む大仕掛のものであらう。

○ワシントン博士報によれば、歐洲の慘狀ハ全くお話にふらぬ、有様である。例へば英國の或る地方を以てハ三百九十五の教会中被害を免れたのは僅々五十であつた。わがバチカントにても五十八全滅、三百九十八破壊せられた。他ハ推して知るべし。

○今自ハ最大なる傳道的好機が展開せられてゐる。即ち六十万の捕虜に對し、物心両面の責任を感ずる。その教字は毎日加算せられ、近く百万人に達するので米國聖書會社は各派の協力を仰ぎて彼らに聖書を頒布する計畫である。

○ワシントン市にてハ酒類販賣を許可して以來酩酊操縦罪にて檢挙せられ、者ハ六割三分方の増加を示してゐる由。
○フイラデルフィヤに於ける、凡そ宗教、教育

及び慈善團體に於て、娯樂のために催さるゝ集會の入場料に對し、廿五仙每一仙宛の税を課する事とに此度同市々會に於て決定せられし由。

○ロンドンの日曜學校時報によれば、世界傳道同盟會より、英國々會の議員宛の公開書によれば、スペインに於ける殆ど凡その新設々會堂ハ閉鎖を命ぜられ、牧師傳道師及び多數會員が處刑せられたと傳へてゐる。新設の集會は殆ど大部分のスペイン国内に於て禁止せられ、聖書ハ出版する事とも配布する事とも出来ず、但しローヤロ教譯聖書は此限に非ず。又多數の聖書ハ破壊せられ、英國及びワドワッド所在の外國聖書會社及び英國聖書會社在

庫品十二万冊は同國官憲に於て押収せられた。メソヂスト傳道局にてハ、ナシビル年會に於て、祈祷日課アッパールム誌の主宰にてラチオ傳道プログラムを放送

する事を發表せらる。その豫算として年額五万三千帯を計上し、ハリト、ウヤリヤウス博士を事務長に推薦し、ナシビルに其の本部を設置せらるる由。

○羅府に新設せられたる加州バチカント神學校にてハ、此度也イラス、カラワー博士(父)を教授として招聘した。氏ハ、説教學と教會監理學を擔任せらる。由にて、斯道の權威として定評ある事として、期待せられてゐる。

○愛國のヒーバロック卿は、カナカ長老教會の一牧師を以てする人なるが、此度、在英長老教會に二万五千磅を寄附せられた。此ハ、過般同教會の指導者達が一教會にて大會を開催中、突如ソ式爆彈が命中して、教名の有力者を含む多數の死傷者を出した。卿ハ是等知己のために記念の飾窓を造る事及び、彼らの遺児達の教育費の爲め、献金する事と。

○世界基督教界の指導者一人と敬へられた英國組合派の巨匠A.E.カーウィ博士は

此度永眠された。著者殊に神學者、著者

○聯合支那救濟會の長セイヤスマックライエ

氏報によれば昨年度支那人救濟のため米人

より送金せし金額は九百五十万弗を越えた

而して此金額は昨年度よりも九十万三千五

百八十六万の増額であつた。

○プリースト神學校長マク博士は此度全米

長老教會外國傳道局長に就任。此は元來

宣教師として人後此の高き書を勤めんと

○組合派教會としてその派と本格的合

同運動を進められてゐる。寧ろおまじりし威

びかする。大体に於て神學的異見がし又教

會として大に過ぐる合同動作を行使せとい

ふ種のツともない。

○ドイツ派普通福音會と知り

たるは主として中西部に勢力がある。紐育に

は同派の中央教會と、さうかちちが創立以

來百廿五年間毎日聖餐式を守つて今

日に及んたといふ會員數は三八名でアイル
ランド市府放界主席の久此度同放會堂
を賣却して新牧師ラズ博士の下にバ
ス、エトの美しき新會堂に移転せられた。

○南加のバプテトは同地方にバプテト病院
の建設計畫に着手した。その信徒は既に
四十万弗を建設費に献じた。その度底に
よつてバプテトが社会的に貢獻するところ
多かるべし。其竣工の日が待たれてゐる。

○米國バプテト派中の有力者によつて結成
せられた社會關係聯合委員會の幹部
は去き四月廿五日附して乗港に開催中の
聯合國際會議に對し時局に鑑み各國
に於て信教の自由を確保せられんこと
を要請した。——曰く、故ルイスベルト大統

領はヤルケ會議後の聲明に於て世界の平
和は太平洋協定の正當且つ正義の原理に
基つて成されねばならぬ。即ち人類の尊嚴
を自覺し、信教の自由と寛容を但詛は

らねばならぬことを宣言せられた。我々

バプテストは一千百万の信徒を以て自己の選
擇と自己意識を以て其會員となし居て
合衆國內に六万五千の教會を管へてゐるものと
す。此度我等もその主要團體の代表者として

たの事を要請する。——曾て一九九年巴里に
開かれし平和會議に際し斯の大統領ウヰルソ
氏に於り國際聯盟に提出せられし原案が採
決により法規となりし規程第七條中に「教
會の派生的事實として、宗教迫害及び偏狹

を以て取扱ひに對し、加盟國はそれ公規公序
を以て尊重せらるべし、之を迫害若くは容
喩する如き立法を爲すことを得ず」とある
が今何を期して同一の主旨に基き聯盟國
は斯の條文に對し、迫害妨礙容喩等
を採立法せらるべし事を要請す云々と。

○ロンドン聖公會のW.R. イグ博士は
辱々奇警の言葉を吐く。有名であるが
氏曰く、「教會はハ半分教育された人達か
半分悔改した人達に親教する所なり」と

皮肉つて居る。如何？